

## 文化学園服飾博物館は、30周年を迎えました。

文化学園服飾博物館は、学校法人文化学園の創設60年を記念して1979年に開館し、2003年には甲州街道沿いの新しい施設に移転しました。日本では数少ない服飾専門の博物館として「衣」を通して日本と世界の文化を知る」をテーマに、これまで国内外で130を超える企画展を開催してきました。また、2000年にはデジタル・アーカイブを整備し、インターネット上から所蔵資料の検索ができるようになり、多くの方々に所蔵資料の情報を提供できるようになりました。

今後も、広い視野から衣服や染織の持つさまざまな面をとらえ、服飾を通して多様な文化を分かりやすく伝えていきたいと思います。

30th

ANNIVERSARY これまでの展示

1979 名品展

1980 火事災害・陣羽根・小袖・ドレス  
韓國民族衣装・装飾・小袖・ドレス  
要紗・小袖・ドレス

東洋の民族衣装

合羽・羽織・半袖・'80年度新収品

縫縫

江戸・明治期の小袖

西洋服飾 19世紀末~20世紀初頭

さしもの

貴重に見る服飾・文化服装学院コスチュームショー作品

日本服飾・西洋服飾

アンデスの豪華

時代衣装・'82年度新収品

麻と木綿の豪華

近代の洋服 一日と西洋

1984 イタリア・ファッションの創始者たち  
ダニエル・カサノバ

伝承原典・大村奈良服飾資料・西洋服飾

明治の小袖・西洋服飾

大村奈良服飾資料・帽子・洋装・文化服装学院コスチュームショー作品

舞妓の衣装・江戸時代の能装束

1985 武道の世界・復興資料によるランプ女子服の貢進

洋服飾 1850~1920年 小袖・復興の表現技術

西洋服飾 1920~1970年 小袖・单衣

世界の晴れ

髪飾り・装饰・複製資料によるフランス女子服の変遷

外衣着

明治時代の小袖

インドネシアの豪華

小袖

ビール・バルマン・回顧展 一創作の山年

第1回リエト遠邦民族衣装・極東地方

小袖・筋文・1930年代のドレス

'86年度新収品

ラッピングとペーパリー

第2回リエト遠邦民族衣装 一バルト三国

1988 装束・小袖・名物装・ドレス・帽子・バッグ・清朝末の宫廷衣装

ヘルシ・シ・ア・コ・ブ・リ・ビ・ンの豪華と逸品 1920~1970年代

インドの豪華・豪華

第3回リエト遠邦民族衣装 ヤクチャ

1989 西洋服飾 1930~45年 小袖・絞身装・工芸品

インドネシア・ビリビンの豪華と逸品 1946~70年 小袖・虹型

開館10周年記念 百貨店名品展

第4回リエト遠邦民族衣装 一ブリヤート自治共和国

服飾の世界

染織の世界

東西の着装美

三井家伝来能装束 一ウクライナ共和国

民族・東洋と西洋

民族服飾の体系

宮廷の装い

第6回リエト遠邦民族衣装 一トルクメン共和国

1990 1991

1979年 服飾博物館 開館  
三笠宮崇仁親王殿下をお迎えしての開館式

民族の世界

服飾と色・白・赤・黒・イランの服飾・染織

刺繍の世界

第7回リエト遠邦民族衣装 一アルタイ共和国

服飾の世界

ベルギーとヨルダンの民族衣装

井伊家伝来能装束

第8回リエト遠邦民族衣装 一バシキール共和国

1992

1992年 「刺繡の世界」展開催  
展示の雰囲気づくりを工夫する

1993

1991年  
「宮廷の装い」展開催  
常陸宮華子妃殿下ご来館

1994

1996年  
ヨルダンにて「日本の服飾文化」展開催  
故高円宮憲仁親王、同妃久子両殿下、  
ヨルダンのハッサン皇太子、同妃  
両殿下(当時)ご出席

1995

1996

1997年 「西洋服飾の流れ」展開催  
ドレスをより魅力的に、分かりやすく見せる  
ため、ベーバーを使って当時の髪型を再現

1996 外衣と底衣

晴れの装い

近代の豪華品紹介 一明治~昭和の装い

錦章優品展・日本の服飾 一宮廷衣装・武家服飾・小袖・絞身装

ブルガリの女性と伝承文化 一愛媛・構らし

1997 脱洋装の流れ 一女性の衣装 1760~1960

藍の世界

羽織の世界 一藍色の衣装

中国の服飾 一清乾隆期の宮廷衣装を中心とした

西洋の服飾

洋装への変遷

1998 錦衣 一日本の袴、アジアのパンツ

西洋服飾の流れ 一シルエットと構成

阿弥陀山の納入染織品と精耕朝の装束

越後古谷製品紹介

第9回リエト遠邦民族衣装 50年の軌跡 一中村勝秀、山田寅、田島忠昌子、中村光哉

2000 西洋服飾のみと仕事 Time・Place・Occasion

アフリカの染綿 一モダン・アフリカ

錦章名品展 日本の服飾 一小袖・絞身装・富士・こころ

2001 アジアの手と脚 一女性の衣装 1760~1970

アーレ・ヌーヴォーからアーレ・デコへ 一ファッショントピック

世界の石窟 一敦煌の壁画 一古代が残す民族・風土・ここ

2002 世界の民族衣装 一明治・大正・昭和の装い

世界の羽織 一モード

2003 2004

2003年  
新しい施設へ移転

2003 おひなさまと装束・謹度

壇場などとおひなさま

2005 三井家の豪華

世界の絞り

2006 2007

2003年 「宮廷衣装」展開催 紀宮清子内親王殿下(当時)ご来館

2006 おひなさまと装束・謹度

壇場などとおひなさま

2008 三井家の豪華

世界の絞り

2009 おひなさまと装束・謹度

壇場などとおひなさま

2010 おひなさまと装束・謹度

壇場などとおひなさま

2010 パレスチナの民族衣装

Vol.  
23

# 文化学園 服飾博物館 だより

2010.4.1

BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM NEWS

写真でつづる30年のあゆみ

1986

1986年  
「ソ連邦民族衣装」展開催  
以後、1993年まで8回にわたり開催

1990

1990年 ビエール・カルダン氏来館

1991

1991年  
「宮廷の装い」展開催  
常陸宮華子妃殿下ご来館

1992

1992年 「刺繡の世界」展開催  
展示の雰囲気づくりを工夫する

1993

1993年  
「井伊家伝来能装束」展開催  
喜多六平太氏にご協力いただく

1997

1997年 「西洋服飾の流れ」展開催  
ドレスをより魅力的に、分かりやすく見せる  
ため、ベーバーを使って当時の髪型を再現

2003

2008年 パリにて「バガテルきもの」展開催

●●●'09年度の展示報告●●●

優品でたどるヨーロピアン・モード

4月15日～6月13日

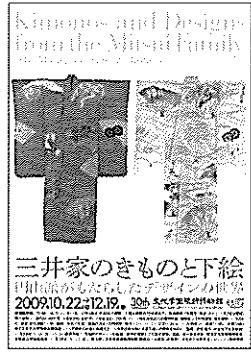
今日のモードの基となった18世紀のロココ時代から1970年代までのヨーロッパの女性のモードの変遷と、その流行が生み出された背景を紹介しました。展示の解説パネルには、文化アカデミックアーカイブセンターの協力により、“AFP World Academic Archive”の800万件に上る画像アーカイブの中から、肖像写真や報道写真を多数取り入れました。流行の先端をいくドレスにはその時代の感性や社会背景が色濃く反映されていることが実感できました。



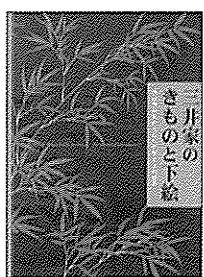
三井家のきものと下絵 一円山派がもたらしたデザインの世界

10月22日～12月19日

江戸時代の豪商として知られる三井家に伝來したきものと、きもの制作のための下絵70点を展示了。これらの意匠には、写生にもとづいた表現を特徴とする円山派の影響が見られ、また、贅沢な染織技法が用いられています。一般的のきものとは異なり、三井家ならではの意匠や染織に感嘆の声が寄せられました。オープンに先立ち、関係者をお招きし、内覧会とレセプションを行いました。



テープカット 左から  
亀居山大乗寺 長谷部真道住職  
国立文化財機構理事長・京都国立博物館館長 佐々木丞平氏  
文化学園服飾博物館 大沼淳館長



『三井家のきものと下絵』  
カラー104、モノクロ28ページ  
A4ワイド判 2000円

赤い服 日本と世界のさまざまな赤

7月7日～9月30日

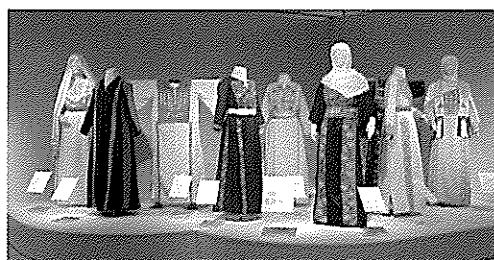
「赤」は太陽や生命力を表す色として、魔除けとして、また権威を表したり、華やかさを演出する色としても使われています。展示では、所蔵品の中から日本をはじめ、世界約40か国のさまざまな赤い服や服飾品を紹介し、それぞれの地域の「赤」の持つ意味を探りました。赤い服を地域別に展示したこと、それぞれの地域の特徴、さらには地域を越えた共通点などが浮かび上がり、「赤」の奥深い世界を認識していただくことができました。



パレスチナの民族衣装

‘10年1月26日～3月14日

イスラエル建国以前の20世紀前半のパレスチナの民族衣装を中心紹介しました。ドレスには、地域ごとに特色のある文様が刺繡で表されており、ふるさとの地を追われたパレスチナ民族の貴重な財産といえます。伝統的なドレスとともに、難民となった20世紀後半のドレスも展示し、政治的混乱や社会状況の変化が衣装に与えた影響を探りました。衣装の他に、お守りの意味を持つ銀の装身具、さらに、周辺地域の衣装も展示しました。



20世紀後半のパレスチナのドレス

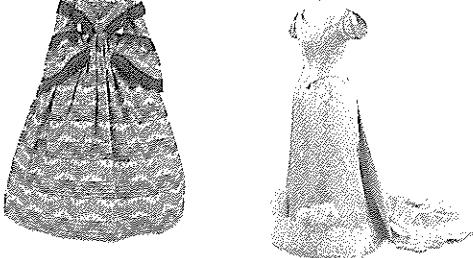
館外の展示への協力

所蔵資料を貸出し、館外の展示に協力しました。

- 「ヨコハマ開港とシルク」展・・・クリノリン・スタイルのドレス 1点  
6月2日～8月30日 会場＝シルク博物館
- 「戊辰戦争後の会津」展・・・秋父宮勢津子妃殿下着用のドレス 2点  
7月18日～9月9日 会場＝若松城天守閣郷土博物館
- 「激動の明治国家建設」展・・・昭憲皇太后着用の中礼服 1点  
11月5日～27日 会場＝衆議院憲政記念館

クリノリン・スタイルのドレス

昭憲皇太后着用の中礼服



## 服飾博物館の取り組み

皆様が気軽に何度でも訪れたくなるような博物館を目指し、当館ではさまざまな取り組みを行っています。皆様からの声も参考にして改善点を見いだし、問題解決の方法を探り、よりよい環境作りに努めています。

### より見やすく ー 照明のLED化と新型展示ケースの導入 ー

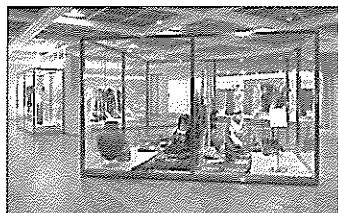
アンケートに「展示室をもう少し明るく」、「作品をもっと近くで見たい」といったご意見が多く寄せられています。しかし、染織・服飾資料は、光源からの紫外線や赤外線、空気の乾燥や埃など、展示中の環境から褪色や纖維の劣化などが起こりやすい纖細な資料のため、なかなかご要望に添うことが難しい状況にあります。

そうした中でも、一昨年度は展示ケース上部へシートを貼ることによって、ケース天井部からの光が観覧者の目に入らないようにしました。それに加え昨年度1月からは、熱を伝えない光ファイバーと、赤外線、紫外線をカットした電球色のLED光源を組み合わせ、スポット的な照明を実現しました。これによって、光による纖維へのダメージを防ぐとともに、照明にメリハリがつき、布の質感や刺繡などが浮き立つて見えるようになりました。LEDは、従来の電球と比べ消費電力量が格段に少なく、エコロジカルな光源として照明の主流となるでしょう。当館でも資料保存とエコの両方の観点から、LEDを積極的に取り入れていく予定です。

また一方では、透明のアクリルパネルを使い、さまざまな形に組み替えができる独立型ケースを開発し、展示資料を多方向から、また、より近づいて見ていただけるようになりました。これからも徐々にではありますが、展示品を保護しながらも皆様に楽しんでいただける展示方法を工夫していきたいと考えています。



電球色のLEDを光源とする光ファイバー・ライトのテスト作業



新型ケースを使った展示。資料を多方向から見ることができる。

### より気軽に ー ぐるっとバスへの参加、広報活動の強化 ー

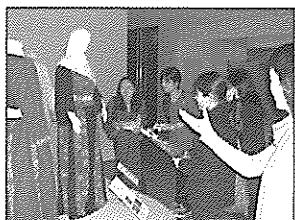
服飾博物館では、展覧会を広く紹介し、皆様に気軽に博物館に足を運んでいただけるような取り組みを行っています。当館も参加する「ぐるっとバス」は、東京都内の博物館・美術館などの入場券や割引券が綴られたチケットブックで、都内70\*1の参加館を自由に選び、見学することができるものです。「ぐるっとバス」を利用すると、服飾博物館とともに他の博物館や美術館もお楽しみいただけます。さらに「ぐるっとバス」と電車の一日乗車券を組み合わせたセットもあり\*2、多くの路線が集まる新宿に位置する当館を利用する際には大変便利です。また服飾博物館での催しを広く知っていただきため、広報活動にも力を入れています。各展示の開始前には、新聞各社やテレビ局など、メディアへ積極的に働きかけ、今年度からはモバイル・サイトという新たな媒体を通じて展示情報を発信し、より多くの方々に展覧会への興味を持っていただき、ご来館いただけるよう努めています。

\*1 2010年度参加館数

\*2 東京メトロ、都営地下鉄の主要駅にて販売。



「パレスチナの民族衣装」展  
を紹介した『芸術新潮』



ギャラリー・トークの様子

### より深い知識を ー ギャラリートークの開催 ー

服飾博物館では、各展示の会期中2回のギャラリー・トークを行っています。ギャラリー・トークは、学芸員が展示品の解説をしながら見学する催しで、解説文には書かれていない豆知識を交えたり、質問にお答えしながら、毎回和んだ雰囲気の中、行われています。スタッフにとっても、来館者の皆様の声を聞く良い機会となっています。

### デジタル・アーカイブが変わります。

現在、服飾博物館のホームページ上から見ることのできるデジタル・アーカイブが新しくなります。今までと異なるシステムを採用したことによって、より充実した所蔵資料の情報をご覧いただけるようになります。

### 『ヨーロピアン・モード』刊行

『ヨーロピアン・モード』は、18世紀から現代までの女性モードの変遷をたどるもので、当館所蔵資料を中心に構成し、時代背景や社会状況などに触れながら、流行の移り変わりを紹介しています。ビジュアルで、わかりやすく解説し、服飾を専門としている方々や、服飾を学ぶ学生におすすめの1冊です。

(A4判 40ページ カラー)

# ●●● 2010年度 展示のご案内 ●●●

Exhibition Schedule

4月14日～6月12日

\*5/16は開館

\*4/23、5/14は19:00まで開館

## ヨーロピアン・モード －18世紀から現代まで－

18世紀のロココ時代から1970年代までのヨーロッパの女性モードに焦点を当て、200年の変遷をたどります。モードは、それが生み出されたそれぞれの時代の政治、経済、産業、文化、科学技術などと深いつながりを持つことから、目に見えるモードの変遷にとどまらず、その背景も紹介します。また、現代衣服の源流ともいべき1920年代のモードを特集し、当時の社会状況やアール・デコなどの美術様式との関連についても触れていきます。



デイ・ドレス  
1900年頃



デイ・ドレス  
1925年頃



“スーパードレス”  
1966年頃

7月6日～9月25日【夏期休館:8/8-15】 \*8/1、8/22は開館

\*7/9、9/10は19:00まで開館

## 世界の更紗

更紗とは、主に木綿布に手描きや型を使って文様を表したもの指し、比較的手軽にできる素朴なものから、複雑な工程を経て作られる精緻なものまでさまざまです。展示では、インドの色彩鮮やかな手描き更紗や木版更紗、インドの影響を受けたヨーロッパやロシアの銅板更紗、蝶防染によるジャワ更紗、アフリカの素朴でおおらかな更紗など、世界各地のさまざまな更紗を紹介し、地域による技法や表現の違いとともに、交易による影響なども探ります。



掛 布  
インド 18世紀



デイ・ドレス  
フランス？ 1835年頃



巻衣または被り布（部分）  
セネガル 1970年代

10月15日～12月18日

\*11/3は開館

\*11/12、12/3は19:00まで開館

## 日本の型染

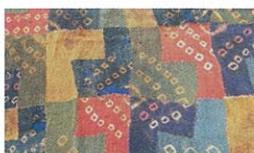
型染は、紙や木などの型を用いて文様を表現する染色技法の一つです。日本では古くから行われ、多くの服飾に型染が用いられてきました。型を使用することによって生じる繰り返し文様や、デフォルメや省略化された文様は型染の大きな特徴です。そして、藍一色から多色を用いた華やかな型染まで、多様な広がりを見せてています。本展では、江戸時代後期から昭和初期にかけての服飾を取り上げ、小紋、中形、型友禅などさまざまな型染を紹介します。



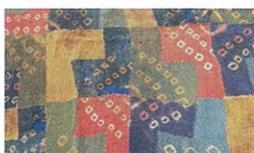
浴 衣 明治時代

絞り染裂

ワリ文化期 (A.D.700-1000)



ジャガー文様染裂  
チャビン文化期 (B.C.1500-B.C.1000)



神魚鳥文様染裂  
チムー文化期 (A.D.1000-1450)

11年1月27日～3月14日

\*2/27は開館

\*2/4、2/18は19:00まで開館

## アンデスの染織

現在のペルーからボリビア北部に栄えたアンデス文明は、織物、編物、染物など多様な染織文化を育んだことでも知られています。それらは良質な木綿、リヤマやアルパカなどの獣毛に恵まれ、また領土の各地からたらされる豊富な染料に支えられていました。特徴を良くとらえた鳥や魚といった身近な動物や、独特な表情の神像など豊かな文様表現も見どころの一つです。展示では紀元前1000年に遡るチャビン文化から16世紀のインカ文明まで、2500年にわたる優れたアンデスの染織を紹介します。



チャビン文化期 (B.C.1500-B.C.1000)

\*上記の予定は都合により変更されることがあります。

## Information

- 開館時間 10:00～16:30 \*各展示会期中2回、19:00まで開館（入館は閉館の30分前まで）
- 休館日 日曜日、祝日、夏期・年末年始、展示替の期間
- 入館料 一般 500(400)円・大高生 300(200)円・小中生 200(100)円  
※()内は20名以上の団体料金
- 交 通 JR/京王線/小田急線 新宿駅(南口)より徒歩7分  
都営地下鉄 新宿線/大江戸線 新宿駅(新都心出口6)より徒歩4分  
(地下道出入口O-1に隣接)

## 文化学園服飾博物館

〒151-8529  
東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル  
TEL. 03-3299-2387

学校法人 文化学園 <http://www.bunka.ac.jp>  
文化女子大学／文化ファッション学院大学／文化服装学院  
／文化外国语専門学校／文化出版局／文化学園服飾博物館

